



ひとり残らずデッドボールでぶち殺しちやれ!

終戦直後の九州小倉
荒くれヤクザたちが
トスやハジキをバットに
替えてどえらい
喧嘩野球をオツ始めた!

菅原文太

北大路欣也

宮下順子

田中邦衛

小島秀哉

中谷一郎

桜町弘子

伊佐山ひろ子

石橋正次

ケーシー高峰

二瓶正也

志賀勝

岸田森

金子信雄

藤岡琢也

嵐寛寿郎

フランキー堺

監督・岡本喜八

製作／大映映画株式会社 配給／東映株式会社
総指揮／徳間康快 製作／俊藤浩滋 武田敏 企画／佐藤正大
脚本／井手雅人 古田求 火野葦平著「新遊侠伝」より
撮影／村井博

ダイナマイト どん

カラー作品



岡本喜八監督作品

ダイナマイト ぶんぶん

〈カラー超大作〉

《かいせつ》

喧嘩好きの荒くれヤクザたちが、戦後民主主義ブームの影響で、暴力抗争の替りに野球で勝負をつけるという奇抜な男性派娯楽篇。SF映画、女性映画、文芸格調作品が乱立するなかで、ひとつ、男つばさ荒つばさ可笑しさを全面に打ち出す新ジャンルの意欲作品である。

ヤクザが野球で縄張り争いをするというユニークなアイデア、単なるスポーツ映画ではなく、ルールを超えて男の意地をぶつけ合う面白さは、評判を呼んだ洋画「ロンゲスト・ヤード」スラップショット等に比肩される。折からの熱狂的な野球ブームもあって、近年まれな大きい期待が集っている一編だ。ストーリーは、昭和25年ごろの九州小倉を舞台に、地元やくざの岡源組と橋伝組が、暴力による縄張り争いの替りに、野球試合で民主的に抗争をするという奇抜なもの。ルールを守れといっても、そこは荒くれヤクザ、やがて凄じい喧嘩野球へエキサイトしていく。全篇、これ抱腹絶倒、迫力満点アクション・シーンの連続で描く破天荒の力作である。

▼注目の鬼才・岡本監督と エイス文太の初コンビ

「実録飛車角・狼どもの仁義」以来、四年ぶりに任侠着流し役の菅原文太。異色のテンポとグラフィカルな映像、そして代表作「独立愚連隊」シリーズで娯楽派No.1の定評がある岡本喜八。

この二人のぶつかり合いからほとばしる汗が、今日日本映画を変えようとしている。新ジャンルに挑む新コンビのワイパーに乞御期待。

▼個性を競う賑やかな共演者たち

現役のアマ投手として、今も野球の試合となると目の色を変える北大路欣也。帝劇のスタッフが集まって創ったチーム「帝劇フランキーズ」の名オーナーとして一家言を有するフランキー堺。熱狂的なトラキチとして自他ともに許す小島秀哉。他に、高校野球を見ると興奮して眠れないという宮下順子をはじめ、田中邦衛、金子信雄、嵐寛寿郎、桜町弘子他新ジャンルの映画にふさわしい異色のキャストが勢揃いしました。



▼この一作にすべてを賭ける！ 文太の特訓

甲子園を夢見たこともある文太は、日頃からマスコミ・チーム等との試合でも快打を飛ばして、野球の腕は非凡なところを見せている。

しかし、台本を手にしてから、全篇に巨る野球シーンの、凄絶なブロックプレーやタッチプレーを吹き替えなしで演じるためにすすんで特訓を受けた。

元野球部のノックを受けたり、とび込んでくる走者を身体で受けとめたり、脛の青痣がその物すごさを表わしていた。

▼珍妙なユニホーム、貴重な小道具

ベルトレス、カラフルな最近のユニホームも顔色を失うという珍妙なユニホームの登場。ヤクザの野球チームということで、ダボシャツに花札の背番号。ニッカポッカにハンチング等の見ているだけで楽しくなる衣裳に注目。他に、スタッフが全国を走り回って見つけた日本に2ツしかないキャッチャーマスク等の好事家の垂涎の的になる小道具が、昭和25年の再現に役割をになっている。

▼文太、CM初体験で題名浸透

最後の大物映画スターで、CM童貞といわれ、一切のCM出演を固辞してきた文太が、今回初めてのCM出演をした。

このCMは、大鵬薬品の「チオピタ」という精力飲料で、文太の活力が素晴らしいタッチでイメージ化されている。

文太は、このCMに「ダイナマイトぶんぶん」という題名をひとこと入れる条件で、一億円以上といわれる出演料を受けとらず、この一作に賭ける文太の意気込みの強さを感じさせている。

◆岡本喜八監督の演出メモ

この映画は「がんばればアーズ」のやくざ版だ。多彩なキャストが組んで、それぞれみんなが一生懸命やってくれているので、面白いものになる。僕もあの「独立愚連隊」のタッチで、どんどん撮りまくって、徹底娯楽を狙う。これまでのどんな映画ジャンルにも当てはまらないユニークな作品にした。とにかく大まじめな喜劇になると思う。期待して下さい。

10月7日より
大公開

〒141 東京都品川区 五反田1-28-2

五反田東映劇場

TEL (491) 0810